

# 労働政策フォーラム

2024/3/6

こどもたちのために、日本を変える

**Florence**

# 認定NPO法人フローレンスについて



## 設立

NPO法人設立 2004年

東京都の初代認定NPO団体

会長：駒崎 弘樹

代表理事：赤坂 緑

## 従業員数

847名(2023年5月)

国内NPO最大規模

子ども・子育てに関わる10以上の事業政策提言や文化創造をおこない、総合的に社会変革を推進

# 取り組む社会課題と事業・活動

## 病児保育問題



## 待機児童問題



## 障害児保育・支援問題



## 多胎育児問題



## ひとり親家庭の貧困・こどもの貧困・孤育て問題



## 赤ちゃん虐待死問題

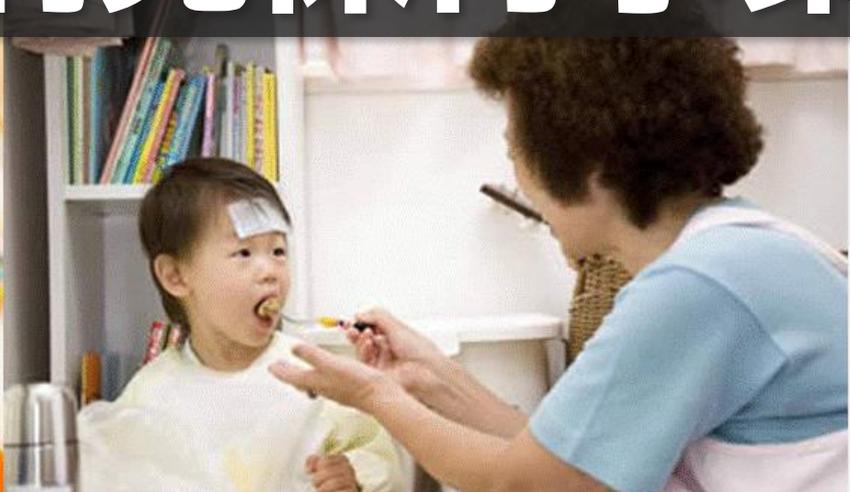


## 政策提言／緊急支援

こども・子育て・親子に関わる政策提言、ソーシャルアクション活動  
国や行政の制度設計  
国内災害時の緊急支援等



# 病児保育事業



# 37.5°Cの壁

保育園では、子どもが37.5°C以上の熱を出すと預かってもらえない。子どもが熱を出すのは当たり前。預け先がなく、職を失う人がいる。

- ✓ 2005年より**自宅訪問型の病児保育**を開始。
- ✓ 当初の利用会員数はたったの38名だったが、2017年度には**6,000名超**。
- ✓ 預かり件数は**累計50,000件以上**。
- ✓ 設立以来**14年間無事故**。



# 障害児保育事業



# 障害児の母親の常勤雇用率は5%

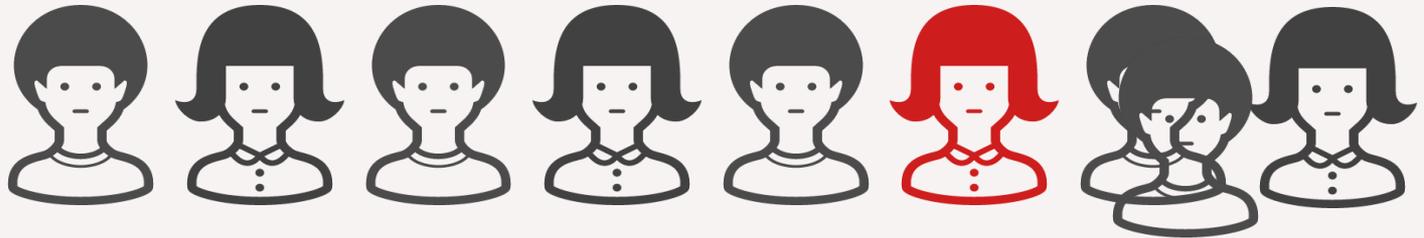
保育の受入先が極度に不足している日本では、  
障害児の母親の大半は、仕事を諦めるしかない。

- ✓ 2014年、医療的ケアの必要な子や重症心身障害児に長時間保育を提供する「**障害児保育園ヘレン**」を開園。
- ✓ 2015年には保育士や看護師が自宅でマンツーマン保育する「**障害児訪問保育アニー**」を開始。
- ✓ ヘレン・アニーを利用している  
就業を希望する母親は**100%**就業が可能に。

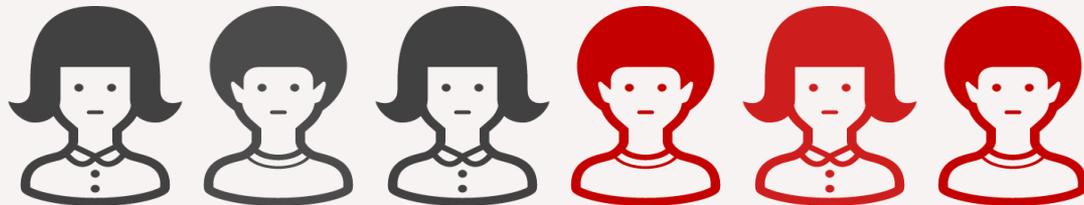
# こども宅食

# こどもの貧困

日本の子どもの**9**人に**1**人が相対的貧困



ひとり親家庭だと**2**人に**1**人が相対的貧困



# こども宅食とは

単なる食支援ではなく、定期的な食支援をフックに、つながりを作り、子育て家庭に伴走する事業です



# 農家や企業などから寄付食品を集め、梱包し個別に配送するのが基本の流れ。 家庭を見守りながら、その後の相談や情報提供につなげる。

## 食品確保・保管



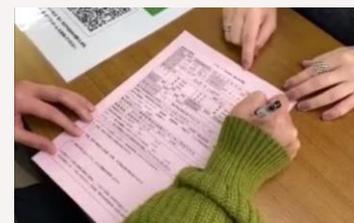
## 配送準備・梱包



## 配送・見守り



## 相談など



# 2017年、「文京区こども宅食」誕生



# 官民連携のコレクティブ・インパクト形式の運営



## 文京区こども宅食コンソーシアム



・事業コンサルティング

こどもたちのために、日本を変える

## Florence

- ・協力・協賛企業の開拓
- ・寄付食品の調達



- ・物流計画、管理
- ・配送情報管理
- ・提供いただいた食品の管理
- ・不足分の食品の購入

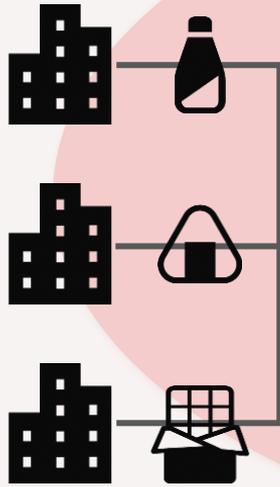


- ・対象者への案内
- ・寄付の受付、管理

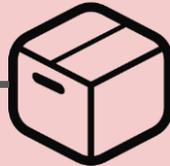
こどもたちのために、日本を変える

## Florence

- ・申込み窓口
- ・事業推進
- ・広報
- ・協力・協賛企業の開拓
- ・利用者対応
- ・情報提供



仕分け  
梱包



ココネット\*

- ・食品の梱包、保管
- ・食品の配送
- ・ハーティスト (配送スタッフ) による見守り

申込み



利用世帯



・ファンドレイジング



- ・評価システムの構築
- ・アンケートによる成果の測定

\*セイノーホールディングス株式会社の関連会社

# 文京区子ども宅食の利用者数・活動推移

2017年10月—2018年8月

2018年10月—2019年8月

2019年10月—2020年8月

2020年10月—2021年8月

2021年10月—2022年8月

2022年10月—2023年8月

2ヶ月に1回配送  
(計6回)

2ヶ月に1回配送+7月臨時便  
(計7回)

2ヶ月に1回配送  
(計6回)

2ヶ月に1回配送  
(計6回)

2ヶ月に1回配送+  
3月コロナ対策臨時便  
(計7回)

2ヶ月に1回配送+  
3月コロナ対策臨時便  
(計7回)

第1期 (年1回申し込み)

第2期 (通年申し込み)

第3期 (通年申し込み)

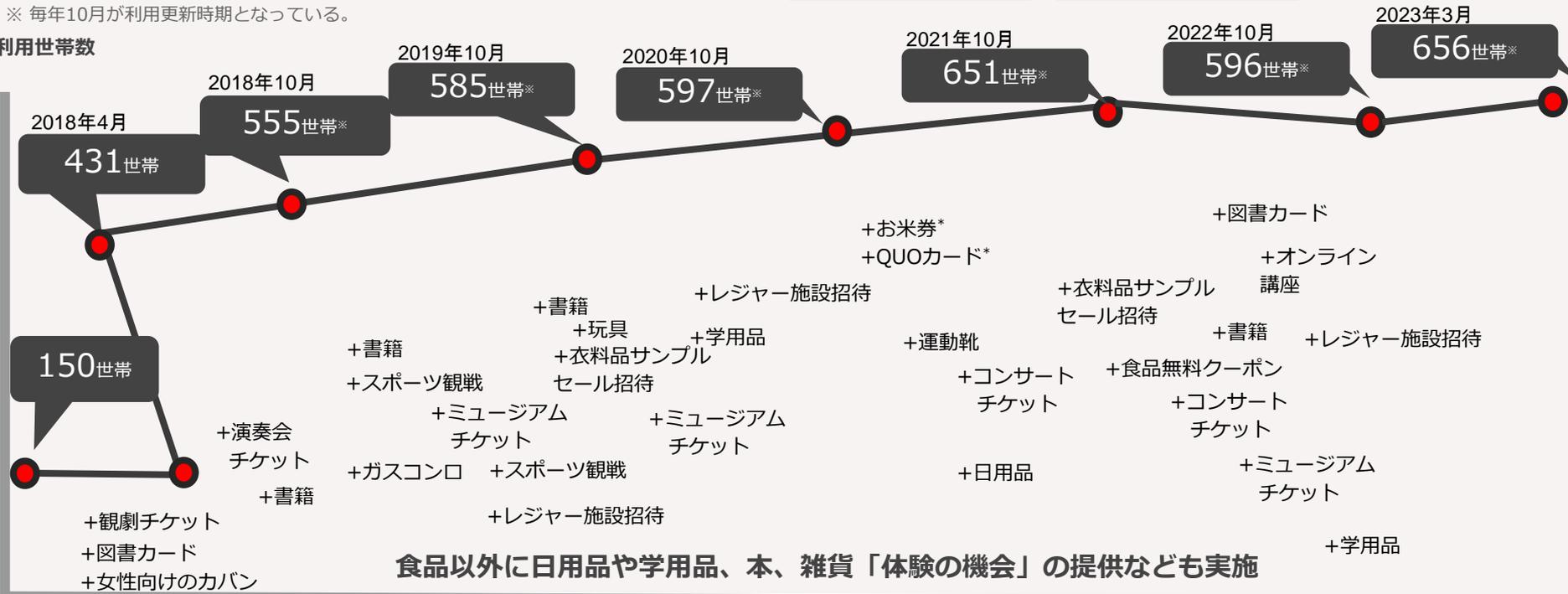
第4期 (通年申し込み)

第5期 (通年申し込み)

第6期 (通年申し込み)

※ 毎年10月が利用更新時期となっている。

利用世帯数



食品以外に日用品や学用品、本、雑貨「体験の機会」の提供なども実施

\* 新型コロナウイルス感染症の影響に対する緊急支援として実施

# 全国に広がる「こども宅食」

こども宅食応援団が連携する

こども宅食の導入団体

196 団体



こども宅食実施団体が

対象としている市町村

約 40 / 47都道府県

支援世帯数

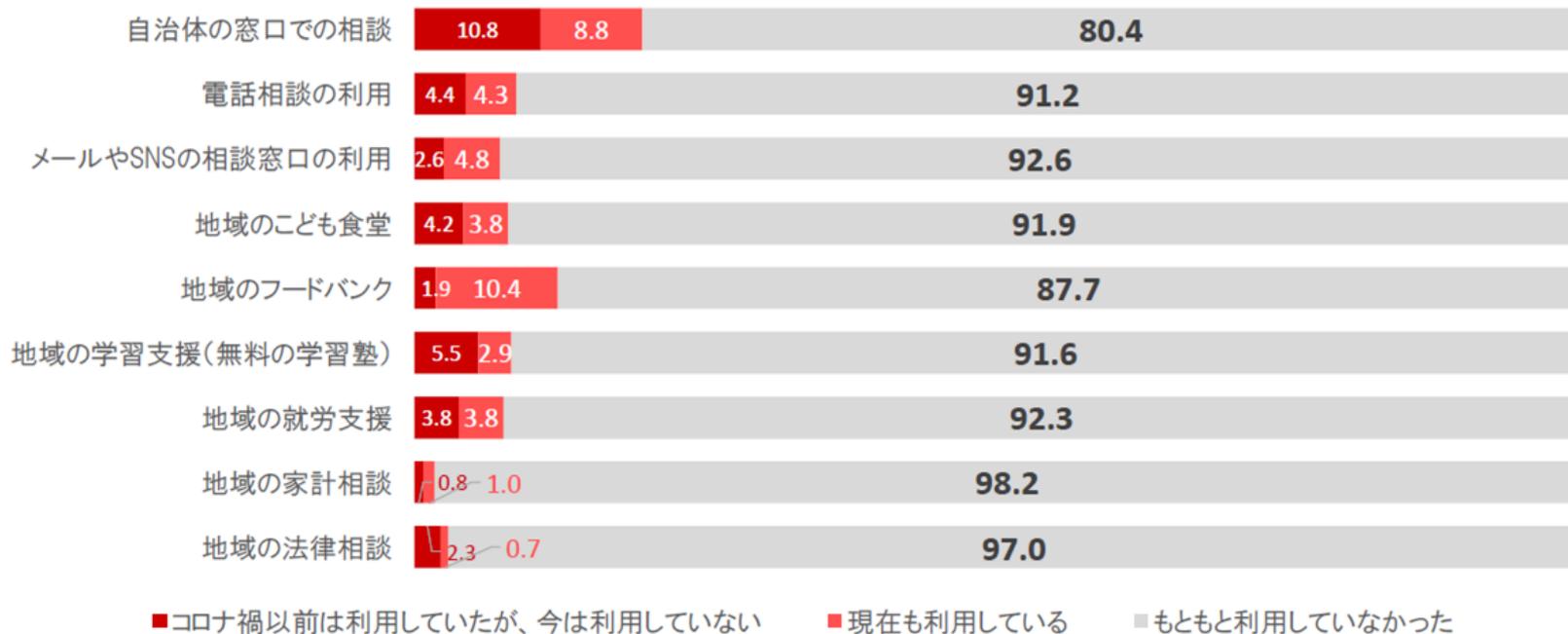
約 1.2万世帯

※パントリー形式による定期的な見守りも含めると2.7万世帯

# 利用者実態：8割が公的支援を利用していない

以下のサービスや窓口の利用状況について、教えてください。

(%)



# 支援につながるまで、様々な制約や障壁が存在する



## 心理的な障壁

家計も赤字だし、子育てもうまくできていないし、人に知られたら「親として失格」と思われるのでは

私より困っている人がいるんじゃないか、私なんか  
が利用していいのかなという思いがあって。

昔、支援を受けたときに嫌な思いをしたことがあつて。もう関わりたくない。



## 物理的な制約

仕事を掛け持ちしながら子育て。  
平日に窓口に行く余裕がない。

フードバンクやこども食堂に行きたくても、ガソリン代や駐車場台を出すお金の余裕がないんです。



## 周囲のまなざし

プライドなのかもしれないけど、貧しい、生活が苦しいというのは周りに知られたくなくて。特に保育園の人には。

田舎町の〇〇市で支援を受けることは…何人も顔見知りがありますので…子ども食堂やフードバンクもありますが利用できません。



## 情報の伝達

どうやって支援団体に助けを求めたらいいかも、わかりません。

とにかく自治体の支援の情報もこちらから調べないと届かないし、支援自体が少なすぎる。

# 「こども宅食」で見えてきた課題

支援のアプローチ

支援の枠組み

既存の  
方針

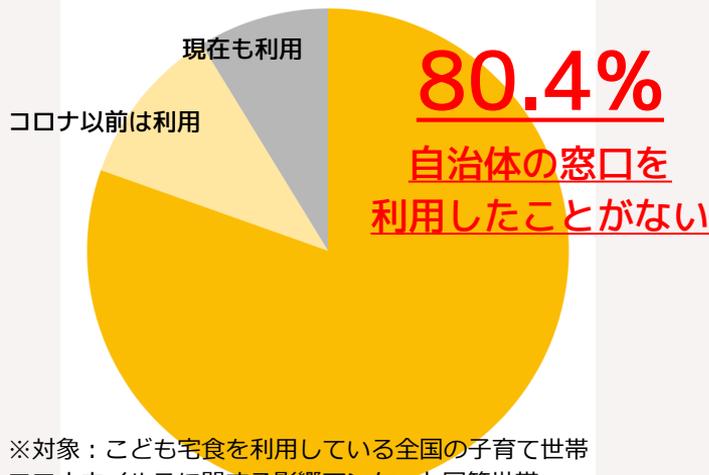
**申請主義・窓口型**

困っている人が来るのを待つ

**地域での支援**

地域の社会資源を活用して行う

**自治体の窓口が利用されていない※**



※対象：こども宅食を利用している全国の子育て世帯  
コロナウイルスに関する影響アンケート回答世帯  
(n=1,015)

**地域の支援者の慢性的な不足**



NHK News Webより転載

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210520/k10013040951000.html>

課題

# 解決策の1つ：デジタルの活用で地域を超える

食品配送等の支援を届けながら、オンラインで継続的に声かけ、ゆるやかに雑談・相談を受け、情報提供・支援へつなぐ

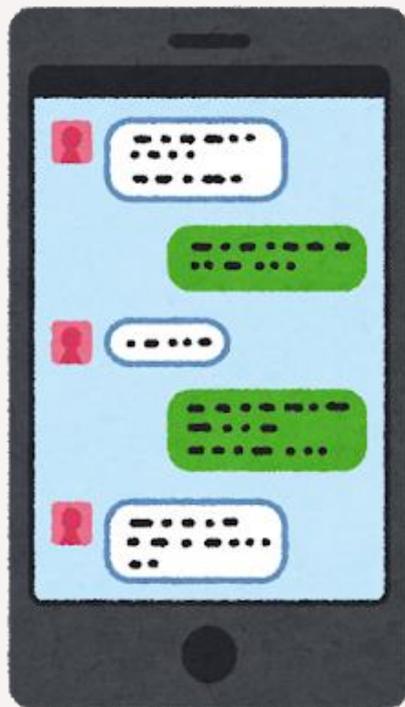


子育て家庭

宅食届きました！ありがとうございます。子どもも大喜びです。

最近寒いですね。ところで、XXについて聞いても良いですか？

今日はとても疲れました。実はXXXでとても悩んでいます…。



無事に届いてよかったです！ぜひお子さんと楽しんでください。

寒いですね><暖かくお過ごしください。XXについて、ぜひご質問ください。

お仕事お疲れさまです。XXXに関するイベントがお近くであるようなのですが、ご興味ありますか？



デジタル  
ソーシャルワーカー

# デジタルとリアルな「ハイブリッド」ソーシャルワーク



# デジタルソーシャルワーカー

社会福祉士・保健師・看護師・心理士等の有資格者が、全国からフルリモートで参画子育て等で制約がある専門人材を活用し、地域・行政の専門人材不足を補完します



1ケースを数人でフォローしていくスタイルなので、悩んだら相談できる環境があって、連携している楽しさがあります。  
(元医療機関の医療ソーシャルワーカー・副業中@東京都)



遠隔ながらもチームで和気あいあいと協力しながら相談対応ができ、分からないことや悩むこともチームメンバーに気軽に相談ができます。  
(元社協の相談員・副業中@愛知県)



様々な経験を積んだ方がいるので、他の方々の対応がとても勉強になります。  
(元障害施設の生活相談員・副業中@徳島県)



# 自治体連携や独自事業として全国へ展開中

母子手帳連携

母子保健連携

「小さな解」

独自事業

2022年10月  
前橋市の母子手帳アプリ  
にチャット相談機能追加

2023年4月  
山形市の伴走型相談支援  
事業を受託開始

2022年2月  
実質ひとり親への  
緊急支援とLINE相談開始



2021年7月  
神戸市と覚書締結  
「おやこよりそいチャット」開始



2022年11月  
外国ルーツの方対象  
「Global Oyako Chat」開始  
多言語対応

自治体連携モデル



2022年5月  
山形市の  
「おやこよりそいチャット  
やまがた」受託開始

おやこよりそいチャット

Global Oyako Chat

All services  
are free  
of charge

Talk casually  
with us  
on LINE

Support for  
parenting and  
living in Japan

※Our services are available in 14 languages.  
Japanese, English, Traditional/Simplified Chinese, Korean, Portuguese,  
Spanish, Russian, Thai, Vietnamese, Tagalog, Indonesian, Nepali, Hindi,  
French.

# 事例紹介

デジタルソーシャルワーカーがオンラインで相談に乗りながら、  
行政・地域支援につないだ事例が多数あります



ヤングケアラー家庭

息子が家事をやってくれていましたが、  
心労から自律神経系の病気になってしまい  
つらい思いをさせてしまっています。  
(38歳女性 ひとり親家庭)

## 行政の支援制度へ

息子さんとご本人の意向を丁寧にヒアリングし、自治体による「こどもケアラー家庭へのヘルパー派遣制度」を案内し、申請手続きを支援



こどもが不登校

娘が不登校で、私もうつ病で…  
親子で煮詰まり悩んでいます。  
この先がとても不安です。  
(50歳女性 ひとり親家庭)

## NPOの支援へ

不登校支援の情報提供をしていく中で、NPO団体のオンライン学習支援の申込みにつながり、娘さんが奨学生として申請が通る。



生活困窮

食べるものが何もなくなっていました。二人の子供だけでもいいので助けてください。  
(女性 ひとり親家庭)

## 食支援から継続的なつながりへ

地域団体と連携して食支援を実施。その後もつながり続け、より添っていくことで前向きになり、自分から社協や役所に相談に行けるように。

# こどもの体験格差

# 子どもの体験活動への参加状況

世帯年収300万円未満の家庭

**3人に1人が学校外の体験0**



寄付者の皆さんからのご寄付（個人/法人）

ご寄付

#夏休み格差をなくそう プロジェクト



# ご提供した世帯数

みなさまからのご支援により

全国 **2,885** 世帯へ

機会のお届けができました

# プログラムに参加したご家庭の様子



# 全国から予想を超える反響があり、ニーズの高さを痛感

## 申し込み時の、親御さんからの悲痛な訴え

養育費貰っていないので収入確保のため平日と土曜日の週6日働いております。  
休みは日曜日しかないため子どもと過ごす時間が少なく、夏休み等の長期休みも  
関係なく仕事しているのと、長期休みの時は値段も高くなる関係で  
どこかに連れて行ってあげたことはありません。  
こどもは本当の気持ちを隠して、遠慮して、我慢して、  
自分の気持ちに折り合いつけて、日々過ごしているのがわかります。  
決して親の前ではそんなこと言いませんが。  
テレビでこのプロジェクトを拝見し、思い出作りをしたいと思い応募しました。

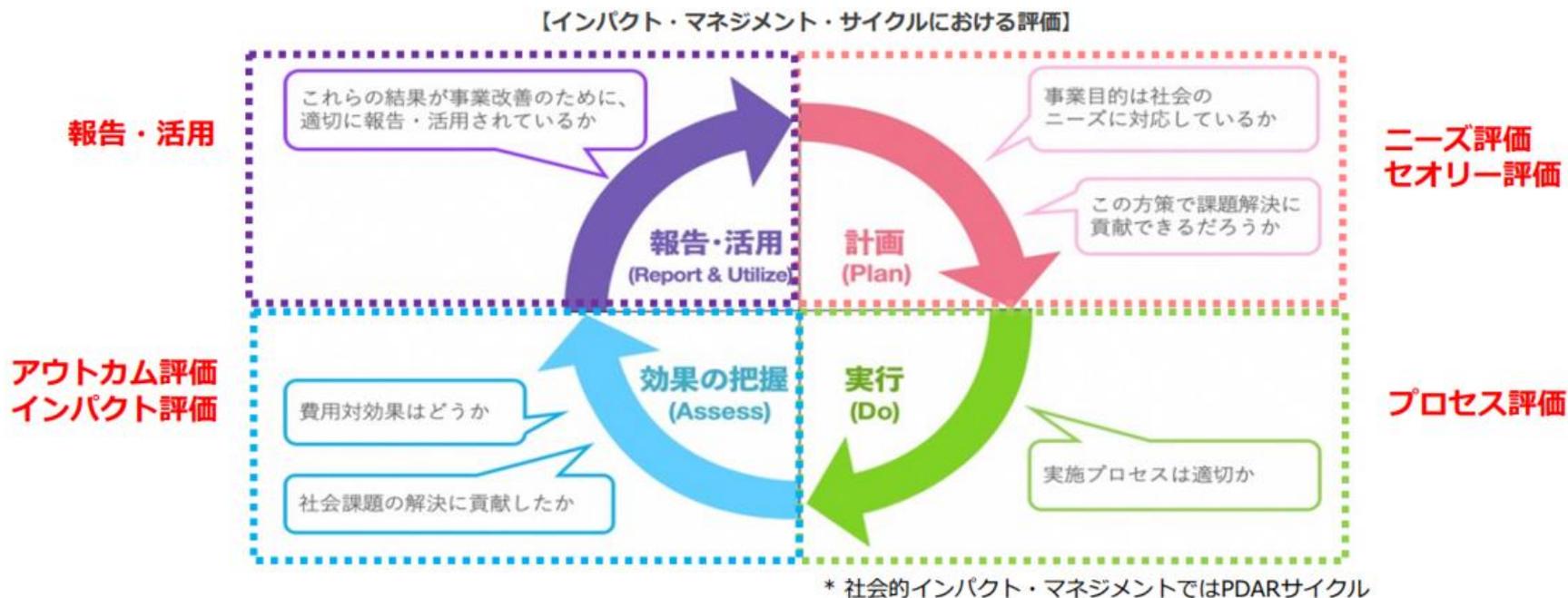
# こどもの“体験格差”を解決する 体験提供プラットフォームを作りたい

**#夏休み格差をなくそうプロジェクト**  
を通じて明らかになった課題を糧に、  
「こどもの体験格差」問題に  
取り組み続けます



# 「時間の貧困」に対する 「こども宅食」のインパクト評価

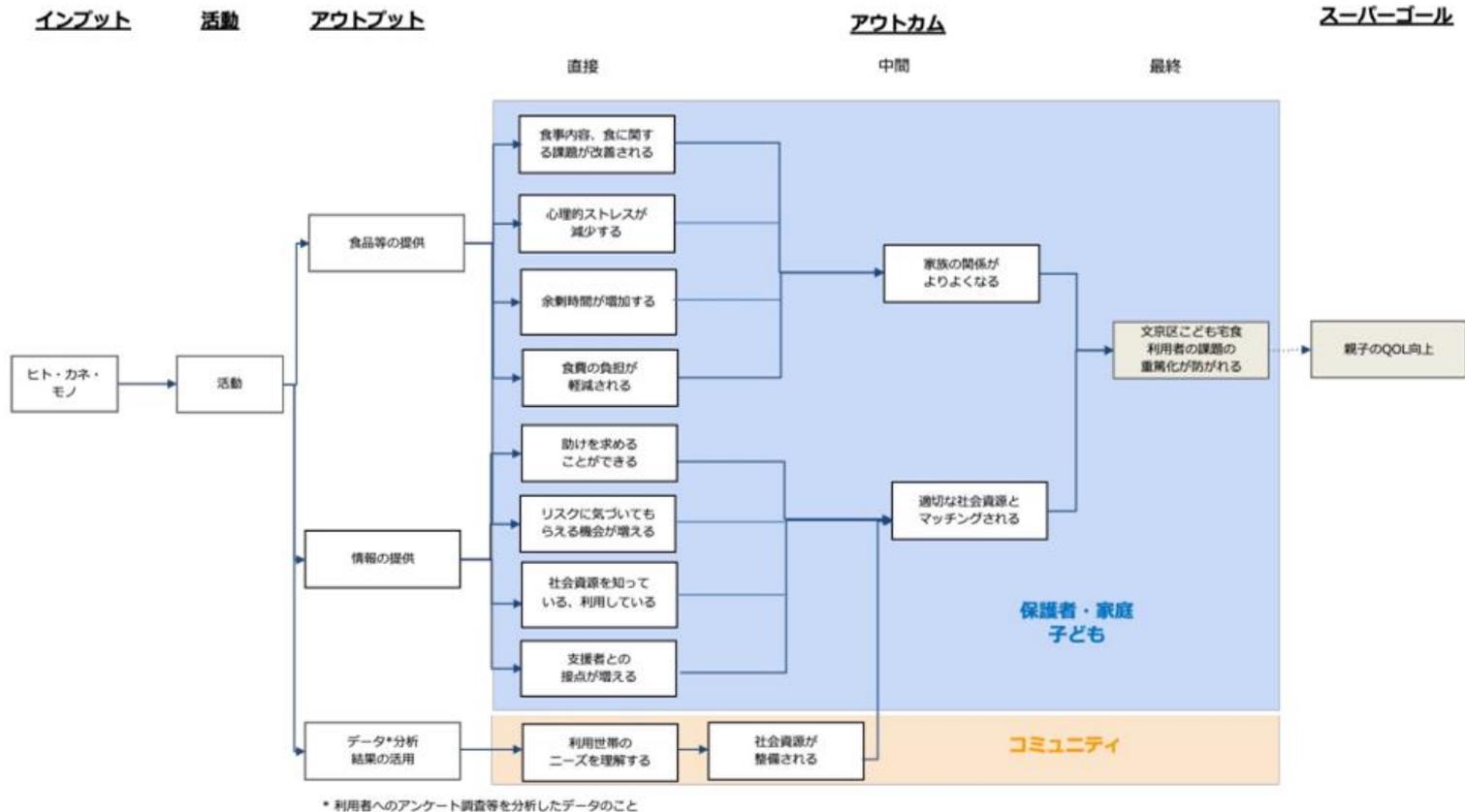
# 社会的インパクトマネジメント



※「社会的インパクト」とは、短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカムのことであり、「社会的インパクト・マネジメント」とは、事業や取り組みがもたらす変化や価値に関する情報を、各種の意思決定や改善に継続的に活用することにより、社会的インパクトの向上を目指す体系的な活動のことをいう。

「社会的インパクト・マネジメント・ガイドラインVer.2」 (一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 2021年3月発行)

# ロジックモデル：「余剰時間の増加」はアウトカムの1つ

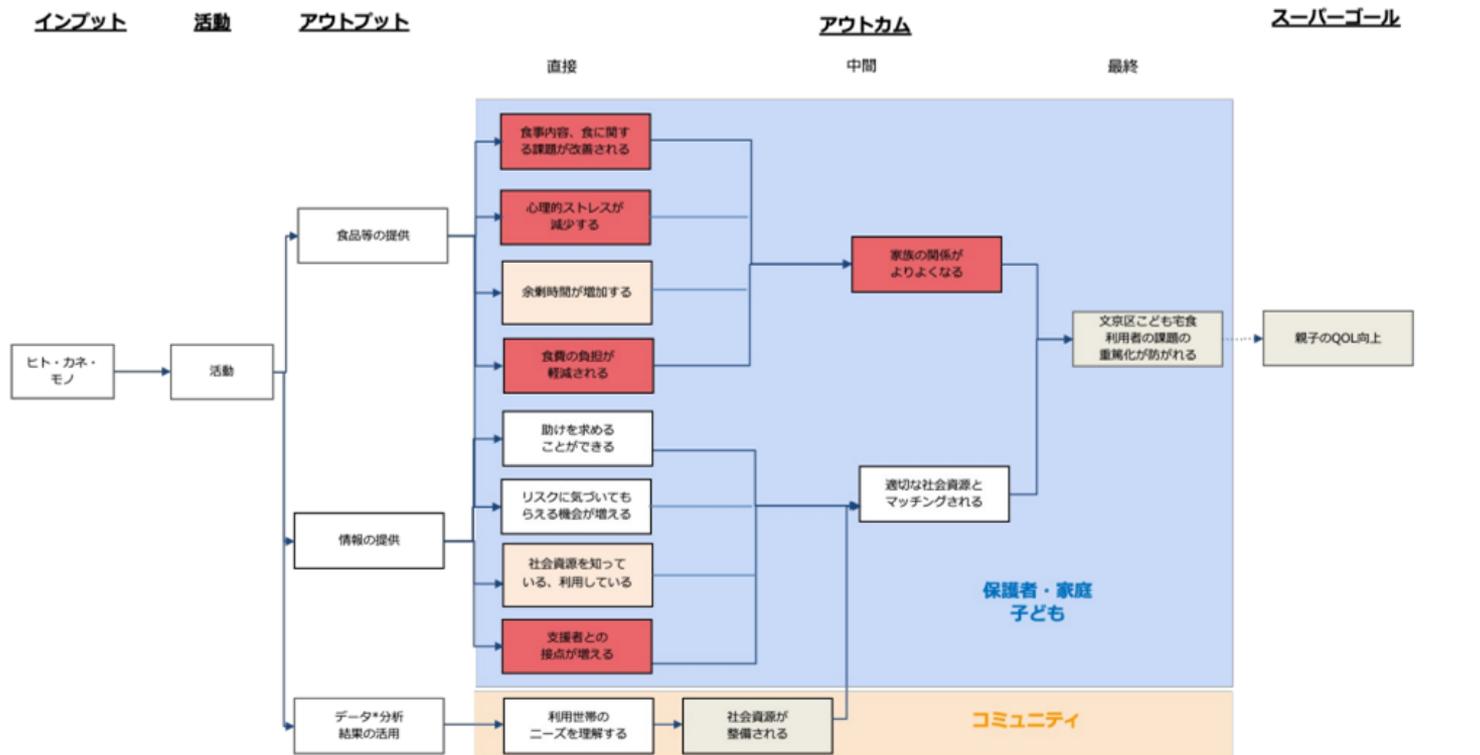


アウトプット：組織や事業の活動がもたらす製品、サービスを含む直接の結果

アウトカム：事業や取り組みのアウトプットがもたらす変化、便益

「社会的インパクト・マネジメント・ガイドラインVer.2」（一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 2021年3月発行）

# 年1回の評価：余剰時間にも一定の変化を観測



\* 利用者へのアンケート調査等を分析したデータのこと

ポジティブな変化が見られた (50%以上)
  ポジティブな変化は見られたが限定的 (50%未満)
  変化につながる事例の発生が見られた
  変化なし/評価対象外

# 宅食利用家庭の35%が「余剰時間が増加」

## 5-4. 評価結果の詳細：初期アウトカム（3） 余剰時間が増加する

35%が増えたと回答。増えた自由な時間は平均31分であり、宅食が余剰時間の増加に一定程度貢献したといえる。

増えた時間

保護者  
家庭

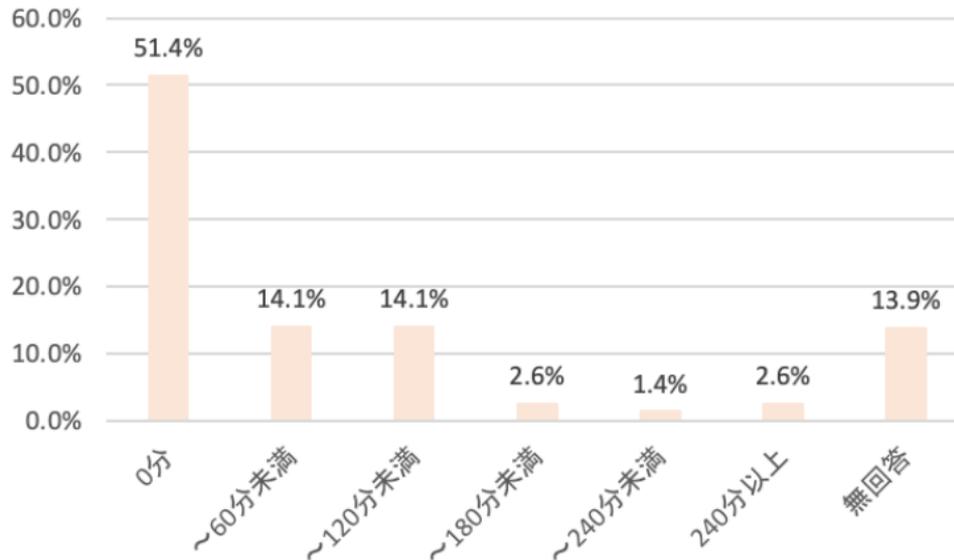
こども宅食を利用したことにより、これまで買い物や調理に使っていた時間が減るなどして一か月のあいだに自由な時間は増えましたか。増えた場合はどれくらいになりますか。



増えた\*  
35%

(2021年度：35%、約31分)

\*「0分」、「無回答」の人以外



(n=498)

# 増加した時間は「休息」「子どもと過ごす時間」に

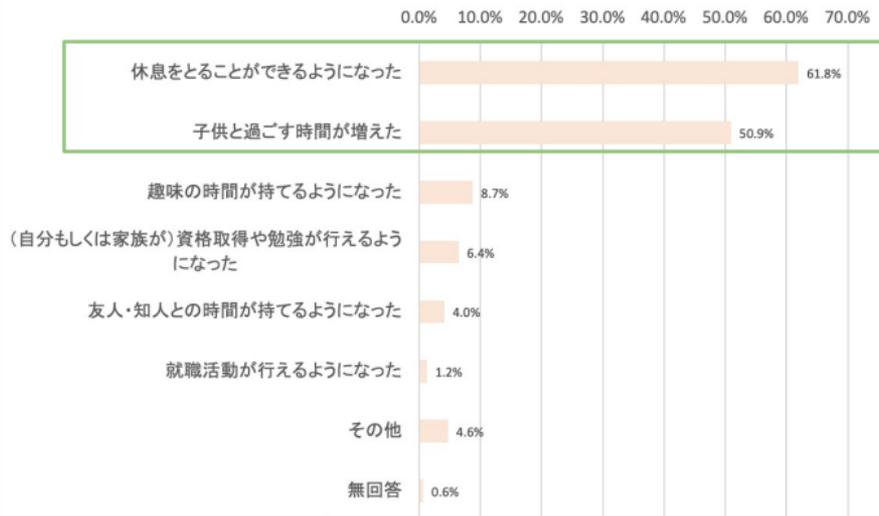
## 5-4. 評価結果の詳細：初期アウトカム（3） 余剰時間が増加する

余剰時間が「増加した」と回答した人の半数以上が、その時間を休息や子どもと過ごす時間に使っている。

追加できたこと

保護者  
家庭

（余剰時間が増えた（35%）の方への質問）  
その時間を利用して、何かしたことはありますか。



「その他」の回答例

宿題を見る時間にあてる。

家事の時間に余裕ができた。

(n=173、MA)

46

# 「体験機会」の提供は「子どもと過ごす時間」の増加にも

## 5-4. 評価結果の詳細：初期アウトカム（3） 余剰時間が増加する

オフライン・オンラインの様々な体験の機会を提供することで、「体験の時間の増加」に寄与したと考えられる。「体験の機会」が利用者とのコミュニケーションにつながる事例も生まれている。

体験の時間の増加

保護者  
家庭

子  
ども

前掲（p.20参照）のとおり、子どもの体験や所有物において、利用世帯の約56%に欠如がみられる。

本プロジェクトでは、宅食の利用によって生まれた余剰時間が、親子で過ごす体験の時間につながるよう、様々な「体験の機会」の提供を行っている。今年度は昨年度に引き続き、多くの企業からの協力の元、**オンライン**でのワークショップ等の実施を続けると共に、**オフライン・来場型**の野球観戦イベントなども再開した。学用品や絵本など子供の生活や学業の助けになる物品の提供企画も含めると、提供数は16企画、延べ722世帯（1073名）となった。

「体験の機会」の提供を通して、**利用者とは多様な接点が生まれることにより、ご家庭での悩みの吐露や相談につながり、利用者とのコミュニケーションやさらなるサポートにつながるケースも生まれてきている。**

利用者の感想

※一部抜粋

- 画面越しの緊張した子供たちの表情からは分かりづらかったかと思いますが、本人たちは楽しく参加できたと言っていました。否定的な言葉を一切使わず、子供たちの感性を認めて肯定的な言葉で対応してくださり、親の私も日頃の育児に参考に見習わなくてはと思いました。コロナ禍でも楽しいひとときを過ごすことができ、嬉しく思っています。ワークショップ後も、いただいた商品で毎日遊んでいます！
- 選手も目の前で見れ、キャッチャーをやりたい長男は間近で観れましたし、次男はバッティング練習を沢山録画して、家に帰ってからも見返して練習しています。良い機会を頂きました。企業様に感謝申し上げます。子どもたちの夢に良いきっかけとなります。

# 「こども宅食」利用家庭から見える 就労と課題重複

# 利用家庭の課題を分類し、分析

サマリー:「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義を設定するために、アンケートの自由記述や専門機関との協議をもとに、以下の6つの課題に注目して分析を行った。

注目した課題
家計の状況
生活困難の状況
「病気・病歴・障害・介護」の有無
こどもの体験機会の欠如
精神的なストレスの度合い
相談相手の有無

# 生活満足度と課題重複には関係があった

サマリー:「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

以下の視点から、こども宅食プロジェクトにおいては「課題が3つ以上ある世帯」を生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯として設定し、食品と一緒に届ける情報の最適化、紹介する支援サービスの充実を進めていくこととした。

重複する課題の数が多いと、生活満足度が下がる傾向がある

課題が3つ以上ある世帯は、課題0個の世帯と比べ、  
生活状況が厳しく、支援に関するニーズも高い

課題が3つ以上ある世帯は、見られないで支援を受けたい、というニーズが特に高い

課題が3つ以上ある世帯(※)を「生活状況が厳しくなるリスクが高い」として設定

※ 以降のスライドでは「課題重複世帯」の略称で表記

# 課題重複世帯の特徴

サマリー:「生活状況が厳しくなるリスクが高い世帯」の定義設定

課題重複世帯はその他の世帯に比べより厳しい状況にあり、支援に対するニーズが高い。

- ❑ 母親の正社員率が低く、無職の割合が高い傾向がある
- ❑ 約半数が世帯年収200万円未満(全体では約3割)
- ❑ 半数弱が生活満足度30点未満(全体では約1割)
- ❑ 8割が子育てに関してネガティブな経験を持っている(全体は約半数)
- ❑ 経済面に加え、教育や就労面での困り度が高い傾向がある  
(「教育」「情緒の不安定」「子供との関係」「就労関連」、で全体との差が大きい)
- ❑ 支援については、食材など生活必需品の提供に加え  
助けを求めたり相談できる相手とのつながり、専門的な支援のニーズが高い
- ❑ 周囲からわからないように支援を受けられることがより重視されている一方、  
精神的なケアや相談に関するニーズも高い

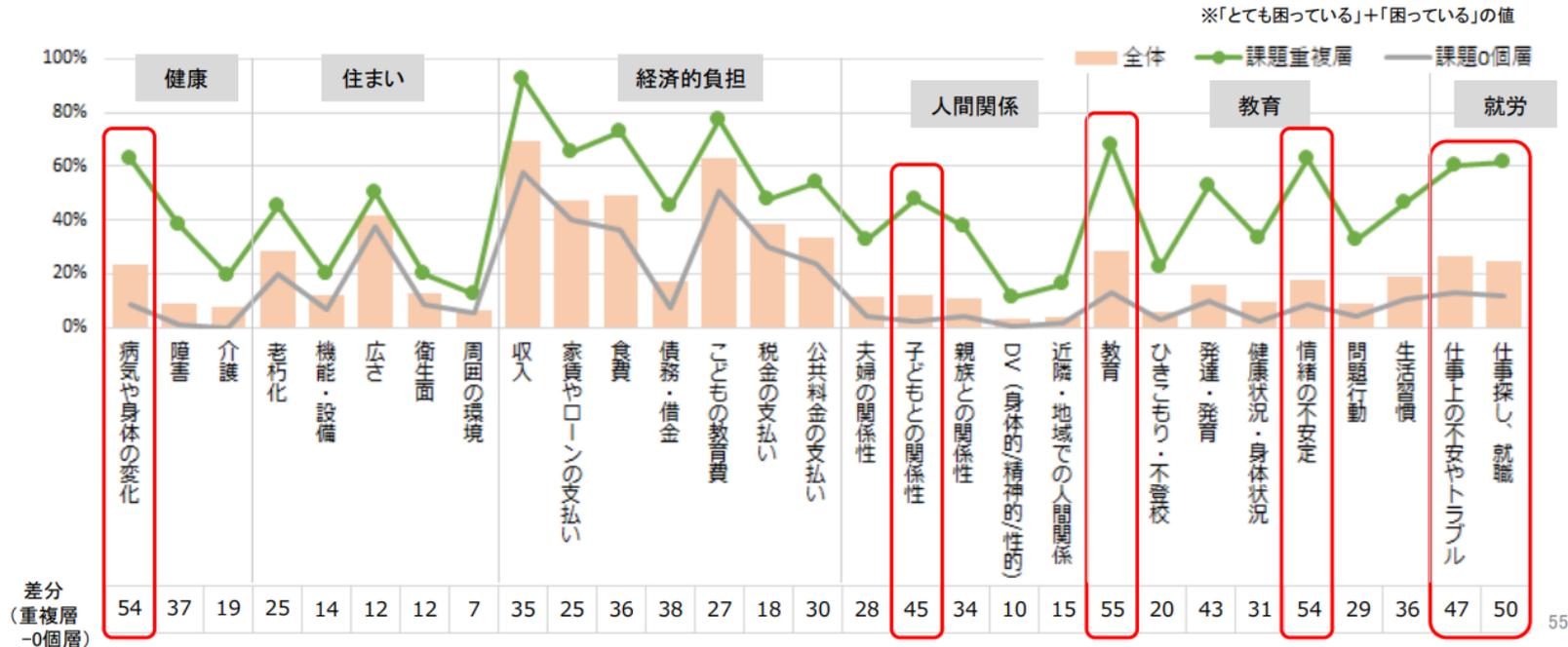
# 仕事・病気・子どもとの関係・教育・情緒不安定が重なる

## 3-4 課題重複世帯の特徴

課題重複世帯は、0個世帯でも高い「経済的負担」カテゴリの他、「教育」「就労」のカテゴリや「病気や身体の変化」でも困り度が高く、0個世帯との差分も大きい。

(囲みは課題重複層と課題0個層の差分が45pt以上のもの)

Q:生活や子育ての中での困りごとについて、ご家庭の状況について当てはまるものをお選びください。(それぞれ単回答\_5段階評価)



こどもたちのために、日本を変える

***Florence***